



言われています。つまり「リスクが高い、離職率が高い、年齢が高い」と「社会地位が低い、収入が低い、學歷

先月、「国際福祉機器展HCR 2017」の開催に合わせ、上海市民政局、中国国内最大級の福祉機器展「China Aid」を主催する上海インテックスの関係者などにより、「中国高齢者介護市場説明会」が開催されました。事前の開催案内を今年はずか

しかできなかったにもかかわらず、大勢の方々に参加いただき満席となり、会場は熱気に包まれました。

2016年末、中国は60歳以上の人口が2・31億人に達し、総人口の16・7%、65歳は1・5億人で、総人口の10・8%です。36年間実施した「二人っ子」政策は、さらに高齢化を加速させました。一人暮らしの高齢者が増え、421（夫婦に4人の親と1人の子供）家族構成や、老々介護が常態化しています。

政府は社会保障を含む政策やシステムを急ぐ中で、特に民間の参入を奨励する政策を打ち出しています。高齢者人口率が一番高い上海は、今年1月から独自の「上海版介護保険」を地域限定で試験的に始めました。また、小規模多機能の地域に密着する施設も速いスピードで展開し人気を呼んでいます。現場のスタッフの人手不足は中国も同じです。「介護という仕事の特徴は「三高三低」と

が低い」。この現状を変えるために、先日上海市では、介護の運営と技術を学ぶ専門の大学を設立しました。300人の第1期生の8割は、現職のスタッフで、勉強し直し、将来はリーダーとして力を発揮する意気込みです。

中国の介護市場にチャレンジする日本企業は後を絶ちませんが、残念ながらこれまで進出した企業が成功しているとは言い難い状況です。今回の説明会では、2006年に中国で工場を作って進出した日進医療器開発部の亀野氏が日本企業がなぜうまくいかないのかを分析しました。例えば、決裁権は日本の本社で行い、行動や判断が遅い。執拗に高品質にこだわるため、コストがかかり価格競争力がなくなる、日本人で固める幹部人事など。それに対してヨーロッパはとにかく現地に合わせた商品を投入、現地に任せる運営を行うことです。介護施設分野でも現地では日本の良さが発揮できていないのが現状です。「日本式介護」を海外へとの計画があるようですが、中身がその国の文化、習慣に合っているかどうか問われます。中国の日々の変化はとにかく速く、介護分野では日本より遅れているかと思っているうちに、どんどん変わっていきます。実際今は、日本の認知症ケアや、自立支援、嚥下障害ケアなど、もう既に上海で一部の施設で実践されていて、成果が始めています。（日中福祉プランニング代表・王青）

中国進出がうまくいかない理由とは